

令和元年度 奈良県立五條高等学校（定時制）学校評価総括表（その2）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
国語科	適切に文章を書いたり、言葉を話したりすることで言語感覚を磨き、卒業後の社会生活を充実したものにする手立てとする。	<ul style="list-style-type: none"> 各単元のはじめに重要語句などを辞書で調べさせる。 授業ではできるだけ多くの生徒を指名して教科書を音読させたり、設問に答えさせたりする。また、基本的な漢字の正確な読み書きが習得できるように何度も繰り返して練習し、覚えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物回収80%以上。 一人の生徒に対して、年間10回以上の音読をさせる。 	B	授業参加率は各学年概ね65%程度。当初に設定した具体的目標を達成するための方策を日々の授業を通じて実践することができた。	次年度以降も本読みや語句の意味調べなどを繰り返し行わせることで卒業後の社会生活に必要な基本的事項を習得させたい。	
地歴公民科	生徒の社会認識を高めるとともに、自立した社会人として必要な学力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 良識ある社会人に必要とされる基礎的語句や基本的事項を学習し、社会生活に必要な一般教養を養う。 日々起こっている身近な政治・経済・社会および国際問題をわかりやすく教材化し、解説する。 より理解を深めるため、適宜ビジュアル教材（DVDなど）を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上。 アンケートによる授業満足度90%以上。 ビジュアル教材を学期毎に2回以上実施する。 	B	今年度は生徒の授業満足度は良好であったが、欠席が多く、全体的な授業参加率は目標に届かなかった。年々生徒の社会的事象に対する興味関心が薄れているように感じる。	毎時の授業で生徒が興味関心をもつ内容を取り上げ、しかも理解しやすい平易な内容とすることに心掛ける。毎時生徒の理解度を確認しながら次の授業へと繋げていく。	
数学科	基礎・基本的な知識を習得させ、それらを的確に活用する能力を養う。生徒の学習に対する評価について工夫改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 例題や練習問題を丁寧に繰り返し、生徒の発言を多くとる授業展開を心掛ける。生徒どうし教え合いをして、数学的な見方や考え方を深める機会を多く設ける。 個々の理解度を的確に把握し、必要に応じて個別指導を行う。 定期考査においては、数学的な見方や考え方を問う問題など適切な評価問題を工夫する。 授業においては、生徒一人ひとりの活動をよく観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人の生徒に対して、年間10回は発表させる。 授業参加率80%以上。 小テスト平均50点以上を目指す。 	B	授業参加率はおよそ70%であり、目標には届かなかった。生徒の学力差による授業内容の設定に苦労したが、ICTの導入や生徒同士の教え合いの場の提供など、生徒主体の授業展開により、概ねカバーできた。	基礎学力の定着を図るために、生徒が興味・関心を持ち、主体的に学びに取組むという姿勢を醸成することが大切である。次年度以降も授業内容の精選やICTの活用など、工夫を凝らしていきたい。	
理科	身近な事物・現象を題材にしながら、基礎・基本を理解させ、科学的なものの方、考え方を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事物・現象を手がかりとして日常に役立つ内容に重点をおいて理解させ、それを生活に役立たせる。 授業には生徒実験や演示実験をし、直感的に理解できる内容を多く行う。 基礎・基本の理解を深め応用できるプリントを作成して用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上。 課題提出率80%以上。 ノート提出率80%以上。 	B	授業参加率73%で目標達成できなかった。課題提出とノート提出は100%であった。実験・実習は、身近にある材料を用いて事物の見方・考え方を具体的に確認することができ、理解を深めるために有用であった。	授業内容を精選し、興味関心ある事柄を手がかりとして、日常生活で役立つ内容をコンパクトにまとめて提示・利用し、授業内容の理解をより深化させていきたい。	
保健体育科	生活習慣が身体に与える影響を深く理解させ、自らの健康管理に留意させ、実践させる。体育実技を通して、自発的に健康及び体力の保持・増進を図る態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 授業で生徒の身近な問題と関連づけることによって、興味や関心をもたせる。 運動に対して興味・関心を持ち、自ら進んで体を動かし体力の保持・増進を図らせる。 スポーツを通して、仲間と協力する大切さを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上。 毎時間、補強運動を行う。 協力姿勢を観察し、評価。 	B	毎時間の補強運動により筋力がつき、4月当初に比べ回数も多くこなせるようになった。2人1組やチームで授業を行ううちに協力して競技等をする姿勢が見られた。	継続して補強運動を行ないながら、生涯スポーツの土台を築けるような効率の良い、補強運動を見つけ実践しなければならない。	
芸術科（書道）	書の基本的な表現能力を養い、書に対する理解と愛好する心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動を通して生徒個々の創造性を高め、個性の尊重を図る。 優れた作品に親しませ、感性を高めさせる。 文字を介した様々なコミュニケーションの基礎知識を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物回収80%以上。 授業参加率80%以上。 	B	授業参加率は80%未満で目標は達成できなかった。提出物回収率は100%で目標は達成できた。	書を愛する心情を一層養うため、生徒一人一人のニーズに即した実習を工夫する。	
外国語科（英語）	日常生活に出てくる身近な英語表現などを活用し、より広い知識を習得させ、積極的に表現する態度を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の英単語や基本的な構文の理解に努める。 日常会話文、英字新聞などの、興味・関心を持ちやすい、実用的な教材を取り入れる。 視聴覚機器や情報機器を活用し、分かりやすく興味をもてるよう工夫する。 生徒に分かりやすい評価方法を工夫し、関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上 	B	授業参加率は68.7%で目標は達成できなかった。フラッシュカードや映像の多用で、積極的に言語活動を楽しんでいる。小人数ならではの英会話も、意欲的に取り組んでいる。	小テストの機会を更に増やし、観点別評価にも工夫を加えて、日々の学習意欲向上に繋げていきたい	
家庭科	実践を通し、生涯にわたり生活を設計する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 生活に関わる話題から、生徒の興味・関心を待たせる。 調理実習を通し、楽しみながら調理法を身に付けさせる。 分かりやすく関わりやすい教材を使用し、生徒が今後の授業に残しておきたい内容となるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上 調理実習実施、年5回以上 提出物回収80%以上 	B	授業参加率は78.4%で目標は達成できなかった。提出物の回収については、ほぼ100%の達成率であった。特に「人と関わって生きる」の単元では興味関心を持ちしっかり取組んだ。	座学と実習のバランスをとりながら実習を多く取り入れ、少人数でも教育効果のある学習を目指し、年間計画及びシラバスを工夫する。	
商業科	各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔な説明と要点をまとめた板書を心がけるとともに、自主作成の練習問題を反復させる。 授業内容を論理的に考える力を身に付けさせる。 中間・学期末に、授業のプリント等を提出させ、点検を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上 提出物回収80%以上 	B	授業参加率70%、提出物回収率83%であった。授業中は真面目にノート・プリントへの記入や課題の取組みをしている。欠席の場合も後日課題をさせたりしているが、欠席が多く、提出物回収率を上げられなかった。	それぞれの科目で生徒が興味・関心を持つ単元を精選し、授業内容に興味をもたせ、授業に出席させる取組みをしたい。	
情報科	情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させる。情報機器を利用する上での危険性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 1時間に1テーマ完結型の内容として、興味を持続させる。 連続した学習内容の積み重ねにより、応用ができるよう工夫する。 情報機器の活用を通して、情報モラルについての指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出物回収80%以上 授業参加率80%以上 	B	授業参加率83%、提出物回収100%。文書作成のスキルを身に付けることができた。情報機器の扱い方に慣れ、日常生活で利用できる力を付けることができた。	情報社会を生きていく上で、必要となる知識や判断ができ、また適切な行動がとれるよう、情報モラルについての指導をより工夫していきたい。	
総合的な探究の時間「トラスト」	体験的な学習を通し、学習した知識をより広く応用でき、主体的に問題解決ができる学力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 郷土についての調査活動などを通して、物事を考える姿勢を重視する。 グループや班活動における役割分担を通して、互いに協力し合う姿勢を培う。 情報機器を活用する中で、情報収集能力や自己表現能力の育成を図る。 郷土の文化や歴史、自然や伝統行事などに関心をもたせ、各自が主体的に調査研究活動に取り組み、結果をプレゼンテーションできるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参加率80%以上 	B	授業参加率はおよそ69%であった。生徒が主体的に物事に関心を示したり、深く調べようという姿勢をつくるために、提示するテーマの設定をもう少し工夫しなければいけなかった。	幅広いテーマの設定や生徒独自でテーマを発見する手助けなど、生徒が進んで取り組みやすいよう工夫する必要がある。	